

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の高齢化、重度化に伴い、一人一人の状態に合わせたケアとレクリエーション等を行うことで...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自然に恵まれ施設の周りには、桜、柿、すもも、びわ等の果物の木があり季節をそばで感じる事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は玄関の目につく場所に掲示し、管理者と職員で意識の統一を図りケアに活かしている。	理念を目につく場所に掲示しユニット各の会議でも職員で話し合い、専門職の意識を忘れずにケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが運営推進会議や避難訓練、夏祭り等に参加して頂くことで交流を図っていた。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった	以前はチラシ作成をして夏祭りなどの行事の参加を呼びかけしたり、小学校の運動会を見に行ったりと地域との付き合いが出来ていたが、コロナ禍で感染防止の為出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りを開催し、地域の方に認知症の方と接する機会を持って頂いていたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として人が密になって集まる会議の開催を中止し、アンケートを配布し回答して頂きそこで出た意見や疑問に対しては後日議事録としてまとめご家族、民生委員、区長へ配布している	コロナ禍で資料を郵送し意見を聞く様になっている。事故報告や運営について、写真を多く取り入れ良くわかる様に資料を作り、知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や認定調査、訪問調査を通じグループホームの情報を伝え、意見や助言をいただき協力関係を築いている。	認定調査や訪問調査を通じグループホームの事故事例の報告や情報を伝え意見や助言をもらいながら協力関係を築くよう務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、申し送りを通して職員共通の認識を図り、安全面に配慮しながら自由に行動出来る様に取り組んでいる。	年3回委員会主催で資料を配布。勉強会があったり、職員は身体拘束を理解し、事例をもとに検討して日々のケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会が中心になって、外部講師を招いた勉強会や施設内での勉強会を行い虐待防止について学ぶ機会を持っている。カンファレンス、申し送り等を通じて虐待につながることはないか検証している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部(市・県)の研修に参加し、職員への制度の理解を促している ご家族より相談を受ける事もあるのでその際は知識を活用出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を準備し、契約、解約、改定について説明を行っている ご家族の疑問や不安に対して理解して頂けるよう丁寧な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と共に手紙を添えて施設での生活の様子・体調等をお知らせしている。ご家族の来設時や運営推進会議で意見要望を聞き、検討、改善を行っている	会議等の資料と多くの写真を載せて家族の安心につながる様工夫し、要望等も聞きながら反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍により全体会議は実施されていないが、その代わりに管理者が職員の意見や要望を吸い上げ、それを施設長、副施設長に申し送り結果をフィードバックする仕組みができています。	毎月開かれる全体会議の中での意見等を上層部に直接伝える事もあり、反映出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善支援補助金等で少しずつではあるが改善されつつあるが、今後も職場環境等の整備が必要と思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修に経験年数に応じて参加している 施設内研修は教育委員会が計画、実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加、意見交換会を行い、交流とサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話を出来るような傾聴の姿勢を心がけている 気持ちを伝えられない方には日頃の様子をよく観察して支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの本人の生活や、家族との関係に配慮しながら支援している 必要な時には本人や家族と面会を行ったり、電話で情報交換している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報、本人、家族より情報や意思を伺い実際に対応した職員同士の情報を共有、話し合いながら必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切に、作業やレク等出来る事を積極的に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ともに本人を支えていく関係築くようにしている 情報共有できる場を作ったり、月末には家族への近況報告のお手紙を出したり、行事参加の声かけを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止策として現在面会は基本的には禁止となっているが、県内の感染状況をみて制限をつけ面会ができるよう支援している	コロナ禍により窓越しの面会で対応だが、近所の人も足が遠のき、出来ていない。利用者の中には帰宅願望もあったが、来所者が無い事を口にする人はいない。家族、知人には話をすることで関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や関係性、気持ちを大切にし席を調整したり、お互いを思いやれるような関係を築ける様な支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が必要ならば、退所された方の情報等提供している。 亡くなられた方には、夏に開催される供養祭の案内を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴と観察を怠らず毎日の生活の通じて思いを言葉に出来る方には要望に沿うようにし、出来ない方には今までの生活状況等から思いや要望をくみ取り検討している。	アセスメント表等、整理され見やすい状況でファイルされている。家族の意見の記録もあり、意見や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より入所前の暮らしや生活環境等の聞き取りを実施し記録し、本人との会話の中から情報を集め把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から、入居者の動きや会話から状況を把握し、訴えを大切にしている。その事は、ケース記録、介護記録、申し送り簿等に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人、家族の意向を元に検討し現状に即した介護計画書を作成し毎月チェック、三ヶ月毎に評価している。	毎月モニタリングを行い課題に添った援助目標が立てられている。介護内容も具体策について記録があり、現状に即した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者の介護記録に日々の状況を記録し、情報を共有している。 随時ミーティング、カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生じる状況や変化に応じ臨機応変に対応出来る様に支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長、家族を交え二ヶ月に一回の運営推進委員会を通じて意見交換を行っている。施設周辺の地域の方に行事(夏祭り等)通じ交流を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望を伺いかかりつけ医を決めている。かかりつけ医による定期往診や必要に応じて他科受診を行っている。	入居前のかかりつけ医の継続やかかりつけ医のない人は協力医で受診を行っている。訪問診療を受ける利用者もあり、また夜間対応もしてもらえる。専門医、遠方医は家族対応が原則となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常時連絡が取れるようにしている。利用者の状態を報告、相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には困難を少なくするように本人の普段の様子や支援方法に関する情報の提供をしている。家族、医師、看護師と回復状況について情報交換を行い退院支援へ努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族と話し合いを行い重度化、終末期に向けた方針を確認しながらケアに取り組んでいる。	入居前に終末期の方針を確認し事業所で出来る対応を伝え、可能な対応をしている。看護師が不在の為看取りはしていないが、医師や専門職と相談して医療機関や入院等の対応になる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時のマニュアルを作成しており職員の周知徹底に努めている。また、消防署の協力を得てAED、救命救急法を学び、習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、安全衛生委員会が中心となり消防署の協力を得て入居者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議を通して家族、地域の協力も呼び掛けている。	年1回消防署対応の訓練、夜間想定訓練を行っている。連絡網も完備されており、職員が緊急3分で来れる人もいる。備蓄、食材も完備している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の意思を尊重し、失礼のない声かけを徹底している。基本的に名字で声かけするが愛称で呼ぶ場合、本人や家族に了解を得ている	入居者の意思を尊重し、目線を合わせ声掛けをしている。基本として苗字で声掛けしている。教育委員会があり、権利擁護の研修もあり対応に反映している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出せる方は声かけし、話を聞いている。自分の思いを上手く表現できない方には、非言語コミュニケーションを使い意思表示サインを見落とさない様にしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者1人ひとりの状態を把握し、希望を聞きその人のペースで過ごせる様支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味趣向を把握し、その人に合った服装やおしゃれが出来る様、支援している。朝の整髪、入浴後のヒゲ剃りも行っており、化粧される方もいる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会が中心となり入居者一人ひとりの嗜好調査を年2回行っている。個々の状態に合わせて食事形態を変えている。食器洗いや台拭き等、出来る方は職員と一緒にしている	給食委員があり個々の状態に合わせて食事形態を変えている。敷地内で取れた野菜や果物を利用する事も楽しみの一つになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎食、毎飲後記録し、摂取量が足りない方は、その方の好みの物やゼリー等を摂取してもらっている 月1回体重測定を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に個々の状態に応じて行っている。見守り支援しながら自分で出来る方にはしてもらい、出来ない方には職員が介助している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	引き継ぎや排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターンを予測し、声かけや誘導、オムツ交換を行っている	トイレが2箇所あり、手すりが横と前に取付られている。夜間のみポータブルトイレの利用がある。パターン表があり、時間で声掛けや自分で行く人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日レクリエーションに運動を取り入れ、適度な代謝を促している。また排泄困難時は主治医の指示に従い、薬を内服して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しているが、希望、汚染などがあれば適時に対応している。また、その日の体調に合わせて入浴者の変更もおこなっている	週2回の基本入浴としている。温泉があり、入口に温泉の効能が表示されて脱衣場に気温の差がない様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムに合わせて、休息をとって頂いている。また、夜間不眠を訴える方には、会話をしたり話を聞いたり、医師に相談して指示を仰いでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルにて、薬の情報がすぐに確認できるようにしている。飲みやすいように薬の形状や口の入れ方などを工夫している。薬の症状についても医師と連携をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一ヶ月の行事表にそってレクリエーションを行っており、一人ひとりの生活歴や役割を把握した上で気分転換等の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により職員と一緒に買う買い物や、季節の行事を計画している。しかし、今年はコロナ禍の為、施設内で行事を行い、外出の機会はなかなか得られていない	コロナ禍で外出が難しい中、施設周辺の散歩や紅葉狩りにと、外気浴を楽しめる様に支援している。季節により柿やすももやびわなどの果物の収穫も楽しめる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している入居者はいない。買い物の際は預っている。小口現金を必要な分渡し、職員が見守りながら支払えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば手紙や電話のやり取りができるよう支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には行事の写真を張り付けている。また、毎月その時期に応じた飾り付けを壁面に飾り、季節感を演出している	リビングには季節の行事の様子や笑顔の写真が飾られ、季節感が感じられる工夫がみられる。花も飾られ居心地よく過ごせる様に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々とした空間の所々にソファを置き自身で選択できる場所、落ち着ける場所になる様に工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や誕生日カードを飾ったり好きな物を置いて居心地のいい空間づくりに努めている	以前から使っていた物やテレビ等を置き居心地よく過ごせる様に工夫されている。部屋は広々として外の様子が窓越しに季節を感じられ、落ち着ける様な環境である。部屋の入口には本人がわかる工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等共同で利用する空間は貼紙などで分かりやすくしている。物の置き場所、配置を変えると混乱する事もあるので定位置に戻すことを徹底している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット2		
所在地	大分県杵築市大字溝井1609番地		
自己評価作成日	令和5年 1月 30日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節における行事では地域の方々と協力して多くの方を招いて入居者様との交流を図っています。特に夏の供養盆踊りについては地域の方々が多く参加され入居者様と一緒に様々な催し物を楽しまれています。(今年はコロナ禍のため実施せず)
施設内から見える中庭にはびわやすもも、柿などの果物や四季折々の花木が植えられています。中庭を散歩したり施設内から眺めることで季節の移り変わりを感じ取ることができるようになっていきました。また、家庭菜園も行っており、入居者様と一緒に収穫し、収穫した野菜を調理して入居者様へ提供することで季節の食べ物を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム初音の里ユニット1】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里の理念、グループホーム理念を玄関を入った見える場所に掲示し管理者と職員に意識付けを行い理念を共有して実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが運営推進会議や避難訓練、夏祭り等に参加して頂くことで交流を図っていた。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りを開催し、地域の方に認知症の方と接する機会を持って頂いていたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として人が密になって集まる会議の開催を中止し、アンケートを配布し回答して頂きそこで出た意見や疑問に対しては後日議事録としてまとめご家族、民生委員、区長へ配布している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個別のケースや困難事例について必要に応じて相談し助言を受けている。認定調査で情報を伝え意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、申し送りを通して共通の認識を図り、安全面に配慮し自由に行動できるように取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・教育委員会を通じて虐待に繋がるようなことはないか検証している。小さいことでも見逃さないよう職員間で注意している		

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止策として研修等の開催を中止しているが、資料を配布し制度について理解を深める機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等について重要事項説明書をもって説明を行っている。ご家族の疑問や不安に対して理解、納得して頂けるよう丁寧に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と共に手紙を添えて施設での様子、体調等をお知らせしている。来設時や運営推進会議で意見、要望を聞き検討、改善している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回開催される全体会議や管理者会議にて具体的に事例をあげ話し合いの場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善支援補助金等で少しずつではあるが改善されつつあるが、今後も職場環境等の整備が必要と思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は職員の経験年数に応じた研修に参加している。施設内研修は教育委員会が計画、実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加を通じて意見交換会を行いサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話せるような傾聴の仕方を心掛けている。気持ちが伝えられない方には日頃から様子をよく観察したり家族から情報等を得て支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活習慣等の情報、御家族が不安に思っていることや要望を聞いて支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から情報や意見を伺い、職員全員で話し合い、必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切にし、その人に合った作業やレク、会話の時間を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し共に本人を支えていく関係を築くようにしている。情報共有が出来る場を作ったり月末には近況報告の手紙を出している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止策として現在面会は基本的には禁止となっているが、県内の感染状況をみて制限をつけ面会ができるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の気持ちを大切にし、お互いを思いやれるような関係を築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	が家族が必要とされれば契約終了後にも情報等共有している。亡くなられた方には夏祭りに開催される供養祭りの案内を出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉に出来る方には要望に沿うように支援し、意思伝達が困難な方には、これまでの生活や現在の状況から思いや要望を汲み取り検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りを行い記録し本人との会話の中から情報を集め双方と照らし合わせて把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや会話から現状を把握し訴えを大切にケース記録、介護記録、申し送り簿に記載している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人と家族の意向をもとに現状に即した介護計画書を作成し、3ヶ月、6ヶ月評価をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の介護記録に日々の状況を記録し情報を共有している。随時、カンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の一人一人の状況や変化に応じ臨機応変に対応できるように支援やサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長、家族を交え二ヶ月に一回の運営推進委員会を通じて意見交換を行っている。施設周辺の地域の方に行事(夏祭り等)通じ交流を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を聞き、希望するかかりつけ医による定期的な往診を受けている。また、必要に応じて他科受診を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常時連絡が取れるようにしている。利用者の状態を報告、相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の普段の様子や支援方法に関する情報を提供している。家族、医師、看護師と連絡を取りながら退院時のスムーズな受入れができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合は対応が困難なため家族と話し合い医療機関へ入院することになっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急マニュアルを作成しており、職員の周知徹底に努めている。また、消防署の協力を得てAED救命救急法の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全衛生委員が中心となり、消防署の協力を得て利用者と一緒に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通して家族、地域の協力も呼び掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、失礼のないように声かけしている。基本的には名字で声かけているが本人や家族からの希望があれば名前や愛称で呼ぶこともある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には声かけし希望を聞いている。自分の思いを上手く表現できない方にはボディランゲージを使い意思表示に気付くように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の希望がある場合にはその要望に沿えるように努めている。声かけをしながらその人のペースで過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪や髭剃りを行っている。普段から衣類が整えるよう気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員が年2回嗜好調査を行っている。個々に合わせ食事形態を変えている。台拭き等出来る方は職員と一緒にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、毎飲後記録している。不足しがちな方はその方の好みの物等を摂取して貰っている。どうしても摂取量が不足している時は主治医、栄養士に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に声かけ、見守り支援をしながら自分で出来る方には声かけし、出来ない方には職員が介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターン、間隔の把握に努め、定期的なトイレ誘導、声かけを行い個々に合った支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物のチェックや工夫をしている。排泄困難時は医師の指示に従い状況に応じて緩下剤を内服して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしているが、状況に応じて柔軟に対応し、個々に合った入浴支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に合わせ午睡をとってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的や副作用など把握するように努めている。服薬の変更があった際は医師連絡帳に記録し全職員が把握するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の現有能力に合わせ生活歴や趣味に活かせるよう努めている。季節の応じたレクリエーションにて気分転換を図り楽しみを感じて頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望によっては戸外に出掛けることは出来ないが、施設周辺には可能な限り出かけられるよう支援している		

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小口現金を預かり管理者が管理している。希望があれば小口現金から買物をしたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要性を考慮し電話でのやり取りを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面に季節感のある装飾や行事の写真飾りいつでも見れるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性、好きな場所を理解し、落ち着ける場所への配慮を行っている。座る場所はほぼ決まっており、落ち着いて過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を部屋に置くようにしている。写真や飾りなどを貼り暖かい雰囲気が出るよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動きや現状を把握し訴えを大切にしている。ケース記録、介護記録、申し送り簿に記載している状態や状況に応じた過ごし方ができるように工夫している。個々の力を活かし安全かつ自立した生活が送れるように工夫している		